

第6次高浜市総合計画推進会議（第5回） 会議録			
日時	平成24年12月17日（月）午後6時30分～7時45分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	7名
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行政	財務グループ リーダー 竹内正夫（財政分科会リーダー） 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己（生涯学習分科会リーダー） 教育センターグループ 主 幹 梅田 稔（学校教育分科会リーダー） 経営戦略グループ リーダー 山本時雄（産業・観光分科会リーダー） 市民生活グループ リーダー 山下浩二（環境・憩い分科会リーダー） 都市防災グループ リーダー 芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー） 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー） 保健福祉グループ リーダー 加藤一志（健康分科会リーダー） (8名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主 幹 三井まゆみ 同 主 査 井野昌尚 同 主 査 鈴木明美 同 主 査 山本久美 同 主 事 江坂摩由里 同 主 事 中村彩 同 主 事 市橋知樹 (9名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1)「高浜市の未来を創る市民会議」各分科会における下期の取り組みテーマと進捗状況について 3 その他		
資料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第4回）会議録 資料2：高浜市の未来を創る市民会議 各分科会 目標達成に向けた取り組みテーマ 資料3：高浜市の未来を創る市民会議＜下期＞ 各分科会開催日程（実績・予定） 資料4：第6次高浜市総合計画推進会議からの提言に対する行政の考え方と対応 【サンプル】		

## 1. あいさつ

- ・第5回推進会議を始めさせていただく。
- ・本日は、会議終了後、懇親会が予定されているため、意見交換については後半にさせていただきます、議題についてはテンポ良く進めてまいりたい。

## 2. 議題

### 1) 「高浜市の未来を創る市民会議」各分科会における下期の取り組みテーマと進捗状況について

- 会 長：
- ・下期は、分科会活動を中心に進めるということで、総合計画に掲げた目標の達成に向けて、市民の皆さんとともに取り組んだ方が、効果が高いと思われるテーマを選び、市民と職員が協働で、事業の検討や実行に取り組んでいくこととなっている。11月に開催された市民会議において、各分科会でテーマを決定し、検討や実行を進めていただいていると思う。
  - ・分科会の取り組みテーマについては「資料2」、各分科会の開催状況については「資料3」にとりまとめられている。
  - ・そこで、委員の皆さんから、各分科会でどんなテーマを取り上げたのか、その内容やテーマ選定の背景、分科会の進捗状況について、1分科会あたり3分程度でご発言いただきたい。
- 委 員：
- ・自治推進分科会では、「自治基本条例の子ども向け副読本を活用して、小学校に出前授業に出かけよう！」を取り組みテーマとして進めていく。
  - ・出前授業を進めるために、現在、授業の内容や方法の検討を行っており、ほぼまとまってきている。出前授業の実施後には、来年度以降の全小学校での実施に向けての改善もしていきたい。
  - ・テーマの選定理由としては、将来を担う子どもたちに、たくさんの地域の人が子どもたちのために、まちのために、様々な活動をしていることを知ってもらい、子どもたち自身もまちのために何が出来るか考えて、行動してもらおうきっかけをつくっていきたい。
  - ・副読本にはワークシート欄を設けてあるため、家庭で活用して、親子で一緒に考えて書いてもらうことで、まちづくりに関心を持ってもらいたい。
  - ・最終的には、全小学校で実施する予定だが、今年度は、高浜小学校をモデル校として、2月7日（木）又は8日（金）に実施する予定となっている。
  - ・現在作成中のシナリオに沿って、12月25日（火）クリスマスに開催する分科会で、出前授業の練習を行う。
- 委 員：
- ・財政分科会では、『『まちの財政を学び合う場』で市の財政を広げよう！』を取り組みテーマとして進めていく。
  - ・3月の市民会議全体会で、小学校高学年用の〇×クイズを出して、分科会単位で答えていただき、反応等を見ていきたい。クイズの内容としては、「高浜市の財政は約220億であるが、この額の1万円札を縦に積むと、名古屋のテレビ塔より高い、〇か×か」といったようなことを考えている。

- 委員：・生涯学習分科会では、「生涯学習に関するネットワークを広げていこう！」を取り組みテーマとして進めていく。
- ・地域でどのような講座が開かれているか、どんな特技を持った人がいるのかといったことを、まずは調査するというので、今年度スタートしている。ただネットワークを構築して、皆さんにお示しするだけではいけないのではないかと、皆さんのご協力をいただきながら、まずは、情報を集める方法を検討している。
- ・その次に、達人の活動のネットワークをつくり、そこで後期高齢者や子どもたちが交わる「まちの学校」を実施していきたい。今年度中に小規模の試行を行い、PDCA サイクルを回して、次につなげていきたい。
- ・情報の集め方も、既存の講座や人材の情報を集めるとともに、インターネットなどで調べると同じような活動をしている他の自治体もあるため、参考にしながら、皆さんが参加しやすい形をつくっていきたい。
- ・メインターゲットは子どもだが、あくまで、“生涯学習”であるため、高齢者や大人から子どもまで、達人とふれあう講座「まちの学校」を開催する。
- 委員：・学校教育分科会では、「市民や地域が関わる学校授業・行事を『見える化』していこう！&学校の想いと地域の想いをマッチングしていこう！」を取り組みテーマとして進めていく。
- ・学校教育分科会は、学校に対してサポートをする立場だと考えている。今後、総合計画の推進にあたって、いろいろな分科会が関わってくる行事やイベントを見える化して、できれば、学校の方針に沿ったもので、取り組んでいければ良いと思う。
- ・想いがマッチしていれば、学校も嬉しいし、連携する市民も楽しんで、達成感を得て取り組めるのではないと思う。
- 委員：・産業・観光分科会では、「高浜野菜を使った特産品をつくろう！」を取り組みテーマとして進めていく。
- ・11月25日開催の農業まつりで、高浜野菜を使った漬物の試食会を行い、アンケートを取った結果、たくあんがとても人気があり、とりめしのつけ合わせの漬物にしてはどうかといった回答が多かった。
- ・分科会に関係するアンケートを2種類実施しており、1つは、農業まつりで行った高浜野菜や漬物についてのアンケート。もう1つ、同日開催のタカハマ物語の上映会で行った、1月20日（日）に行われるコミュニティ・ビジネスで発表される方に絡んだボランティアに関するアンケートを実施したところ、ほぼ全員の方がボランティアに関わりたいという回答であった。ただし、ボランティアをするためには、どこに行ったら良いのか分からない、情報がないという意見もあり、ボランティアをしたい人たちに対する情報発信が、非常に不足していると感じた。後ほど、「NEW ボランティア人の発掘」について地域福祉分科会から話があると思うが、意識して

いただければと思う。アンケートの結果については、共有させていただく。

- ・漬物については、高浜市で作った野菜を使って高浜市の産業の1つにつなげていきたいという思いがあったが、北海道で、漬物による食中毒で、死者が出てしまった。今、漬物に対する衛生法上の規制が非常に強化されており、残念ながら、高浜市の今の農業関係者や私たち分科会が取り上げようとしているレベルでは、無理があるということが分かった。改めて、漬物から路線を変えて、高浜野菜に特化したもので、展開を図っていきたい。
- 委員：
- ・環境・憩い分科会では、上期に提出された「環境・憩い分科会の提言を実行しよう！」を取り組みテーマとして進めていく。
  - ・現在、毎月第4水曜日に分科会を実施しており、環境改善につなげていく現場であるエコハウスで開催している。
  - ・分科会メンバーには、地域で活発に環境問題について活動されている方や、勤めていた会社で熱心に活動されていた経験のある方など、様々な方がいて、そういった方の持つ事例や考え方が活発に議論されている。
  - ・分科会の基本テーマとしては、ごみの減量をベースにして取り組んでいく。そのために、子どもたちを巻き込んで、レベルアップしていきたい。
  - ・また、不法投棄を徹底的になくしていきたい。子どもたちの教育も含め、何らかの手を打っていく必要がある。
  - ・今回は、12月19日（水）に分科会を開催し、不法投棄のパネルやセンサーカメラ付き防犯カメラの活用などを具体化する検討を行う予定。
- 委員：
- ・防犯・防災分科会では、「安心・安全が実感できるようにしよう！」を取り組みテーマとして進めていく。
  - ・“安心・安全”は、数年前から全国的に語られるようになったが、やはり、体感治安が良くならなければ、“安心・安全”とは言えない。最近では、事故や事件、犯罪、先ほどの不法投棄も含めて、多く発生しており、なかなか生活の基本である“安心・安全”が感じられていない。
  - ・直接は関係ないが、“安心・安全”を育むために、まずは子どもの教育として、「あいさつ運動」を実施していきたい。過去にもこういったことは実施されたようだが、なぜ続かなかったのかといったことも検討していく。
  - ・子どもだけでなく、大人も、高浜市全体を巻き込んで、あいさつのできるまちになれば良いと思う。お金もかからず、気持ちだけでできる。
  - ・12月19日（水）開催の次回分科会では、展開方法を検討し、すぐに実行していきたい。
- 委員：
- ・防災に関しては、2つのテーマを進めていくこととした。1つは、「標高の見える化」の第2ステップの展開、もう1つは、有識者や被災体験者などによる講演会の開催。
  - ・「標高の見える化」は、3月までに600ヶ所に表示を行ったが、今後は、人の集まるコンビニや公共施設などにも表示していきたい。11月24日開

催の防災ネットきずこう会において、田戸町と碧海町が実施した早朝の避難訓練の事例について話があった。早朝にもかかわらず、470～480人ほどの参加があったということで、すばらしいと思った。その中で、田戸町と碧海町の避難集合場所に標高の見える化の表示を行ってほしいという意見があり、すでに表示済み。

- ・また、市民意識調査では、若い人の防災意識が低いという課題が挙がっており、12月19日（水）開催の次回分科会で、今期中に実施できるものは実施し、来年度も継続していろいろな意見を交換していきたい。

- ・講演会を開催するのも良いが、百聞は一見に如かずということで、難しいことかもしれないが、東北への視察もできれば良いと思っている。

委員：・地域福祉分科会では、「つながり・支え合い活動を地域に広めよう！」を取り組みテーマとして進めていく。

- ・「NEW ボランティア人」の認知度を高め、地域の支え合い活動を広げていくための活動として、いきいき広場3階の展示スペースに、11月4日開催のわくわくフェスティバルの際に実施した取り組みの様子のパネルを展示している。社協の広報紙による周知も行っていく。また、シティマラソンや市民参加型イベント、5歳児検診など子どもを取り巻く行事で、「NEW ボランティア人」のチラシを配布し、皆さんに知っていただきたい。

- ・「NEW ボランティア人」の登録場所としては、わくわくフェスティバルの際には「ボランティア人宣言」として認定書を交付したが、社協に窓口を設置することが決定した。後々には、まちづくりの拠点となるまち協への協力も依頼していきたい。

- ・わくわくフェスティバルでは、650人の方に「ボランティア人宣言」をしていただいた。自分のできることを、用意したものの中から選んでいただき、身近なところでできるボランティアということで、取り組んでいただけた宣言をしていただいた。

- ・また、子どもから高齢者、障がい者の交流が図れる新たなイベントを創出する必要があるということで、「ボッチャ」の出張教室の開催を考えている。わくわくフェスティバルでは、「ボッチャ大会」に、30チーム102名の方に参加していただき、体験コーナーも72名の参加があった。

- ・現在、指導者には、社協と地域福祉分科会のメンバー、さわやかふれあい講座に参加していただきたいいきいきクラブの方が登録されている。

- ・平成25年度からは、小中学校のボランティアクラブを中心に、市民を始め、障がい者や高齢者も参加できるスポーツ大会として、展開し、公式行事として、市民体育大会の1つとして取り組めるように、市民に理解を求めていきたい。課題としては、若年層を巻き込み、年齢の若い指導者を養成することが必要となってくる。また、道具が高額であり、現在は市内に3セットしかない。当面は、練習会場の確保ということもあり、いきいき

広場2階のエントランスを会場として考えている。

- ・昨年度開催した、災害時要援護者支援に関する取り組みについては、以前から課題となっているが、分科会単独での実施は難しいため、防犯・防災分科会との連携はもちろん、地域の主体となる団体への協力を考えている。
- ・ボランティアについては、登録数を指標としているが、ボランティア登録を勧めるよりも、“ボランティア”にはどんなことがあるのか、自分がどんなことができるのかといったことを、まずは広げていくことが重要ではないかと考えている。ボランティア活動の実施が先であり、その後、ボランティア登録につながるような意識を高めていくという活動に力を入れていきたい。

委員：・健康分科会では、「地域医療ネットワークを市民に周知しよう！」と取り組みテーマとして進めていく。

- ・何よりもまず健康でなければ、何もできない。本人と家族が元気であることで、皆さんもいろいろな活動ができるのだと思う。

- ・現在、「高浜市在宅医療講演会」として、「地域医療ネットワークと在宅医療連携」をテーマに、1月19日（土）午後1時30分～3時15分、いきいき広場ホールで講演会が開催される。講師は、刈谷豊田総合病院・地域連携室の方を予定。ぜひ皆さんにも参加していただきたい。

会長：・本日は、各分科会の職員リーダーの皆さんにも出席いただいているため、意見等をいただきたい。

行政：・財政分科会のメンバーは、若い職員や女性に多く入っていただき、いろいろな意見をいただいている。最近やっと、メンバーの皆さんの個性が表れてきたように思う。

- ・今、クイズを考えているところであるが、「そうなんだ！」という発見があり、関心を引き寄せる、おもしろい内容になると思っている。3月の市民会議全体会では、分科会対抗のクイズ大会を実施したいと考えているため、楽しみにしていただきたい。

行政：・生涯学習分科会では、生涯学習に関するネットワークを広げていく取り組みを進めているが、“ネットワーク”というものに対して考えていることが、皆さんバラバラであるため、全員必ず一度は発言するという進め方の中で、皆さんから意見をいただきながら、分科会を進めている。

- ・前回の分科会では、全国で行われている様々な取り組みを紹介しながら、議論を進めた。その中で、ようやく「こういうことをやったら面白いのではないか」といったことが、だんだん形になってきている。

行政：・市民委員から話のあった不法投棄については、看板を設置したり、啓発文書を配布したり、いろいろな対策を打つが、各現場において、試行錯誤しながら実施しなければ、どれが解決に結びつくか難しい問題。

- ・その数少ない事例の中で、解決した内容に共通したことが1つあった。そ

これは、近所の方が不法投棄の現場に注目をされたところであったということ。そういった事例を参考に、現在、現場で実験を行っている。

- 行 政： ・子どもは、地域の宝であり、子どもを巡って、いろいろなことが関係してくる。しかし、学校は授業や行事でとても忙しい。子どもも、先生も、親も忙しいという状況の中、市民や地域が関わるものを整理していくことが必要。また、学校の想いと地域の想いは、立場が違えば、ズレも出てくる。そのため、その想いを見える化したうえで、マッチングしていきたい。
- ・学校も、地域とコミュニケーションを取ることで、地域と一緒に、より良い形で子どもを育てていけると良い。
- 委 員： ・各分科会の取り組みテーマを拝見したところ、職員としてどうあるべきかということ考えた。前・総務省自治財政局長の椎川忍さんが、10月に「地域に飛び出す公務員ハンドブック」という本を出されており、その中にある、「椎川流公務員十戒」を簡単に紹介させていただく。
- ・『うちにこもらず、広い世界に飛び出し、人脈を広げよ』  
…公務員は自分の時間とお金を使ってでも、積極的に民間人を交えた、勉強会やグループミーティングに出かけていき、知識、人脈、ノウハウを広げて、仕事やライフワークを活かすようにしたいものである。
- ・『理屈ばかりこねず、まず実践せよ』  
…公務員は分業体制になっている中、日常業務を行っている、特に地域住民の皆さんに直接関係のない、組織管理や文書審査、予算、庶務などを担当している場合には、自分に与えられた二次的ミッションを処理することだけに意識が行ってしまい、時として、公務員の最終ミッションを忘れて、自分の現在の担当業務さえこなせば良いという錯覚をしてしまうことがあるのではないか。
- ・『現場主義で改革・改善を心がけ、常に一步前進せよ』  
…公務員は、自分の目で直接現場を確認し、地域住民の皆さんの声に、謙虚に耳を傾け、それに共感し、できない理由を探すのではなく、何とか解決できないかと考える姿勢を持つべきである。その上で、自分なりの意見を持って、自分の担当する仕事に工夫を加え、常に一步前進する気構えで取り組むことが大切。私は、常々、小さな改善ができない人には、大きな改革は絶対できないと言い続けてきた。
- ・地域が主体であるということを、職員にはもう一度考えていただき、今後、この市民会議に関わる職員が、こういったものに教示できればと思う。
- 会 長： ・椎川忍さんというのは、前・総務省自治財政局長であり、現在は退職して、地域に飛び出す公務員ネットワークの代表をされている。「地域に飛び出す公民ハンドブック」には、全国の参考になるまちや人が載っている。
- 委 員： ・12月9日に開催した「まちづくりシンポジウム」で講演いただいた豊重哲郎さんにも関係があり、豊重さんが主催されている「故郷創生塾」でも椎

川さんが講演されているようだ。

会 長： ・各分科会からご報告をいただいたが、それぞれ個性的な取り組みを進めているようだ。委員さんから、ご意見、ご質問があったらお願いしたい。

【意見等】

委 員： ・不法投棄は、年末になると心配。町内会長を務めていた時から3年ほど、元旦にごみを片付けている。不法投棄をする場所は大体決まっているため、その場所を徹底的にきれいにしていた。自分で処理できるものは処理し、できないものは行政に協力していただき、その時は、不法投棄が非常に減った。現在は行っていないため、また不法投棄が増えている。

・市内全体でも、不法投棄される場所は大体決まっているはず。場所を絞って、町内会などと協力して、徹底的にきれいにしたり、夜に見張りをするということを実施して、一步一步進めていくというのも1つの方法。不法投棄をする人も限られている。

委 員： ・各分科会の取り組みをお聞きしていると、講座や発表会の企画が多い。推進会議で決まってきたものを、1枚の表などにして、見える化をしていただけだと、お互いに協力して、無駄なことをしないで済むのではないか。

・生涯学習分科会においても、いろいろな情報を教えていただきたいと思っている。この推進会議でのネットワークをさらに深められれば良いと思う。

委 員： ・各分科会の活動で関連することがある。つくったものを次にどう共有するかという部分について、推進会議の中は良いが、分科会のメンバー同士で情報共有・交換できる機会を、今後行ってはどうかと思っている。

事務局： ・連携する場合は、各分科会の市民リーダーと職員リーダーそれぞれが集まって、どこと何を連携したいということを申し合わせて、お互いに合意が得られれば、連携して、一緒に進めていくということで決まったと思う。

・市民メンバーの皆さんも、月に1回という大前提のもとで、市民会議に参加していただいている。あれもこれもはできない。

委 員： ・どこかが総括で音頭をとるわけではなく、それぞれの分科会の市民リーダーと職員リーダーで決めて実施していくということか。

事務局： ・事務局が連携を誘導するのではなく、必要に応じて、それぞれが動いていただきたい。

委 員： ・関連するテーマに対して、「こことここが協力した方が良い」といったことは、行政が調整しなければ、私たち市民ではできないと思うが。

事務局： ・職員リーダーが各分科会の想いを汲んで、要望があれば、職員リーダー同士で調整はさせていただく。ただし、最初の要望を挙げる段階では、それぞれの分科会の中から話が出てきていただかなければ動けない。

・職員リーダーを定期的集めて、内部で打合せをする機会も持っている。そういった場所で情報交換をしながら、各分科会に持ち帰って、合意が得られれば、連携を進めていただきたい。



- 委員：・そうなると、やはり鈴木委員が言ったような、まとめがほしい。
- 会長：・課題が様々な分野にまたがっているというのは見えやすいが、担当部局で検討するときに、どこが何をやるのかなど、話が進むにつれて、また、分かれていく可能性もある。連携の課題が挙げた際に、その都度、行政に相談をして進めていくのが良い。教育や生涯学習は、ありとあらゆるところに関わってくるため、連携を課題にされるのはよく分かるが、なかなか難しい。ただし、内容をシートにまとめるというのは良い方法だと思う。
- ・先ほど、災害時要援護者の話があったが、これは防災担当との連携を望まれる課題だと思う。しかし、初めから防災担当と話し合っている前に進まない。まずは、“個人情報保護”の問題をクリアしなければならない。また、地域のネットワークをどうつくるかといったこともある。それは、検討を進めて初めて、防災担当と話し合いができるということになる。防災担当は、障がい者の問題などについては、情報を持っていない。そういった部分については、福祉担当から情報を提供していかなければならない。プロセスごとに違う連携をする必要がある。その都度の調整は、行政側が努力していただけるということだった。
- ・最後に、事務局より、今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。
- 事務局：・3月上旬に開催する市民会議において、各分科会から下期の取り組み内容を発表していただく。発表方法やフォーマット類については、1月28日（月）開催の第6回推進会議でお示しする。取り組み成果については、2月中にとりまとめていただくことになるため、分科会活動の方、よろしくをお願いしたい。

### 3. その他

- 事務局： **【まちづくりシンポジウムについて】**
- ・12月9日に開催した「まちづくりシンポジウム」では、市民会議の皆さんにご参加、PRや受付のお手伝いなど、いろいろな面で支えていただき、感謝申し上げます。おかげさまで、390名のご来場いただいた。アンケートについては、現在とりまとめているところであるが、「大変良かった」というご意見をたくさんいただいている。
- 【推進会議からの提言について】**
- ・10月から11月にかけて、アクションプランの見直し、来年度の予算編成に向けて作業を行っている。前回の推進会議で提出いただいた、推進会議からの提言の反映状況、方向性・対応については、来年度の当初予算編成の目途がつく、年明けにお返しするというところで、1月28日（月）開催の第6回推進会議で、各担当グループから発表させていただく。発表の形については、資料4をご覧ください。左側が提言内容、右側が提言に対する行政の考え方と対応という形になっている。いただいたアイデア1つ1つについて、

「実施済み」、「一部実施済み」などの提言の実施状況、具体的な実施内容など、いつ何をどういう風に行うのかといったことを、具体的な形でお返しさせていただきます。

#### 【次回の市民会議全体会について】

- ・提言の反映状況の発表については、第6回推進会議でご説明した後、市民会議全体会でお返しすることとなっており、全体会を1時間程度、残りの時間で分科会を予定している。
- 委員：
- ・1月20日（日）午後1時30分から、いきいき広場にて、コミュニティ・ビジネスの発表会が開催される。25点ほどのアイデアが発表される予定。経営戦略グループが1～2年かけて、コミュニティ・ビジネスの勉強会から実施し、提案までこぎつけることができた。ぜひ多くの方に聞いていただき、困りごとから新しいビジネスにつなげていきたい。
- 会長：
- ・各分科会からご報告をいただき、素晴らしい内容だと思う。自治推進分科会の子ども向け副読本の活用は、将来に大きな効果が出てくると思う。財政分科会の財政についてクイズにするというのは、とても珍しい。生涯学習分科会の地域の達人発掘というのは、全国的にもヒットになると思う。達人をどのように探してくるのかという部分については、みんな苦しんでいるところでもある。学校教育分科会の見える化もとても良いこと。今、学校の求めていることと、地域が学校に求めることとのミスマッチが起こっており、溝ができる原因となっている。モデル的な事業になると思う。学校と地域のコーディネータはあまり進んでいないのが現状。産業・観光分科会のコミュニティ・ビジネスへの着目は、高浜市にとっては重要な課題になると思う。環境・憩い分科会の不法投棄、ごみの分別について、子どもたちに立ち会ってもらい、体験してもらいということは、非常に良いこと。子どもの前で、悪いことをする大人は恥ずかしい。子どもがきちんと知っている、見ているというのは、抑止効果がある。防犯・防災分科会の“安心・安全”の基本中の基本であるあいさつ運動については、あいさつ検証調査というものが実施されているが、こういったことを実施する学校は減ってきた。市民意識調査で、10歳代の防災意識が低いというのは、憂うべきこと。地域福祉分科会は、ボランティアネットワークを広げていこうというエネルギーの基となっている分野だが、災害時要援護者支援にも手を広げていかれるというのは、とても良いこと。神戸市では独自条例として、災害時のための要援護者名簿を地域の管理団体とパートナーシップを結んで活用するというのをいよいよ条例化する。しかし、そのためには、市民側も訓練しなければならない。健康分科会の地域医療ネットワークは、地道なことではあるが非常に大切なこと。在宅医療の講演会の開催を、市民側の力で実施していくというのはすばらしい。行政側が発信してもなかなか聴きにきていただけない。市民が関わると、地域の課題となってきた実感にもつながる。

- ・行政職員の努力にも敬意を払いたい。先ほど話のあった椎川さんがおっしゃっていることだが、小さな人口規模の自治体職員は、都市型職員と少し違い、お昼の休憩には自宅に帰って、子どものご飯をつくる職員がいたり、自治会・町内会の関係で勤務時間中に 30 分、1 時間活動をされる職員がいたりするようだ。公務員法違反ではないかという声もあるが、これは、公務員としてはむしろ理想的な姿だとおっしゃっている。なぜかという、公務員である前に、市民であり、市民が市役所に働きに行っているということだからである。これを椎川さんは「屯田兵型公務員」と言っている。こういった公務員がもっと増えると良い。

- ・議事録については、書面表決とする。
- ・今後の日程
  - 第 6 回推進会議：1 月 28 日（火）
  - 第 5 回市民会議：2 月 5 日（火）